

# 事業計画書

5

1. 事業名称 外国人の子ども支援事業

2. 実施主体

- 団体名： NPO法人 外国人の子どものための勉強会
- 事業担当課： 市民環境本部 企画管理室

3. 取り組もうとする課題（テーマ）と事業

松戸市内の小・中学校に在籍する子ども数は減少を続けている。そんな中、外国から来て編入学する外国にルーツをもつ子ども（外国人の子ども）の数は逆に増えている。地域の学校に入った外国人の子どもは、第2の母語になる日本語を習得し、日本語により学力をつけそして松戸を支える存在になっていくことが求められる。文化、歴史、価値観、習慣などが全く異なる日本の学校に入り、懸命に適応して行こうとしている外国人の子どもたちの多くが、授業についていくための日本語習得が難しく、また日本人の子どもが当然知っている学校での暗黙の了解の上での行動がとれず不利を被っていたりする。

これらの課題に対し、学校以外の地域での支援も効果的である。地域のいろいろな経験知を持った者が地域の外国人の子どもを支援することで、課題解決の一部を担えると考える。

4. 事業目的と成果目標

平成19年度に引き続き平成20年度「外国人の子ども支援事業」を実施した。20年度は講演会「地域で支える外国人の子ども」への参加が59名、「日本語スタッフ養成講座」への参加が56名、「夏休みにほんご教室」への外国人の子どもの参加は35名であった。

両年度とも地域での外国人の子ども支援に参加する新しい理解者を多数得て、夏休み、学校を離れて地域で外国人の子どもを支える「夏休みにほんご教室」が実施できた。

今年度は夏休みの他、「冬休みにほんご教室」を加え、中学3年生の受験対策を行い志望校入学を目指し、支援の充実を図る。

5. 協働の意義

外国人の子どもの教育を学校（教育委員会）に任せきりにせず、地域、国際交流協会が一部役割分担することができると思う。NPOが呼びかけて反応がなくても「松戸市協働事業」だと広報すれば、日本語支援や国際交流に興味のある地域住民の関心を呼び、新しい理解者、協力者を集めることができる。外国人の子ども支援を「短期の日本語支援」と捉えず、NPOと市が協働にあたることは内なる国際化、共存を目指す市の目的に繋がり意義は深い。

6. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

講座、夏・冬休みにほんご教室の企画、実施。

■ 市の担当課の役割

講座、夏・冬休みにほんご教室の広報。場の確保。負担金。

## 7. 事業の具体的なスケジュール

### (1) スタッフ養成講座「あなたもこれで日本語の先生！」

夏休みにほんご教室にサブスタッフとして参加するための講座。

日時：平成22年7月18日(日) 14:00~16:00

会場：市民会館301

講師：井上恵子(千葉県教育委員会委嘱研究員・相談員) 予定

対象：学校・担任・学校派遣日本語ボランティア・国際ボランティア・一般・学生

定員：50名

### (2) 夏休みにほんご教室 苦手な日本語にチャレンジ!(8日間)

日時：7月23日(金) 24日(土) 27日(火) 28日(水) 30日(金) 31日(土)

8月3日(火) 4日(水) 14:00~16:00

会場：常盤平市民センター

対象：小学生は5日間 中学生は8日間

定員：30名

### (3) 講座「外国人生徒の受験を考える」

外国人生徒の高校受験への対応を考える講座。

日時：平成22年9月12日(日) 14:00~16:00

会場：市民会館101

講師：王慧槿(特定非営利活動法人多文化共生センター東京代表) 予定

対象：学校・担任・学校派遣日本語ボランティア・国際ボランティア・一般・学生

定員：50名

### (4) 冬休みにほんご教室(5日間)

高校受験直前の中学3年(受験生)対象の受験対応教室。

日時：平成22年12月23日(木・祝) 24日(金) 25日(土) 26日(日) 28日(火)

14:00~16:00

会場：市民会館101

対象：外国人の中学3年生

定員：20名

## 8. 将来の展開

養成講座の参加者の中に、夏休みにほんご教室でサブスタッフを体験後、日本語支援活動を継続する人が5名出てきている。一方、夏休みにほんご教室に参加した外国人の子どもは、学校とは違う地域の先生からいきいき学び、力をつけることができてきた。高校進学した外国人生徒が、ここに来れば何か得るものがあると思ったのか、予告無しでふらりとやって来たりもする。

このように外国人の子ども支援を地域で継続することで地域連携、ボランティア養成、国際交流の推進を展開していている。

## 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金） NPO会費 寄付	金 額	積算内訳
			30,000 円
		10,000 円	
	自己資金合計（a）	40,000 円	
	労力換算額計（b）	320,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	357,640 円	
資金合計額（d）（a+c）		397,640 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講師料	34,000 円	2人×17,000円
	日本語教室謝金	340,000 円	15人×8日(夏)×2,000円 10人×5日(冬)×2,000円
	ボランティア行事保険	10,640 円	35人×8日(夏)×28円 20人×5日(冬)×28円
	ちらし・資料印刷	10,000 円	用紙・印刷・コピー代
	教材・副教材・文具等	3,000 円	
		対象となる経費合計額（e）	397,640 円
その他経費		円	
		円	
	その他経費合計額（f）	0 円	
事業費（g）（e+f）		397,640 円	収入合計額（d）と同額

# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	協働事業打ち合わせ	10,000円	20名×1h×1回×500円
	協働事業準備	50,000円	5名×2h×10回×500円
	講座打ち合わせ(夏・冬)	20,000円	20名×1h×2回×500円
	講座準備(夏・冬)	10,000円	10名×1h×2回×500円
	講座活動(夏・冬)	40,000円	10名×4h×2回×500円
	教室打ち合わせ(夏・冬)	50,000円	20名×1h×5回×500円
	教室準備(夏・冬)	130,000円	10名×2h×13回×500円
	協働事業反省会	10,000円	20名×1h×1回×500円
	合計(b)	320,000円	